

ももたろう基金【第4次助成】 事業実施報告書

実施事業	真備町から始まる新しいまちづくりプロジェクト
実施者名	特定非営利活動法人 岡山マインド「こころ」
助成金額	3,000,000円
受益者数	直接受益者 2100名 (間接受益者 5000名)

※イベント実施や複数回実施事業は別紙で各回の人数等、対象者数のわかる資料を添付ください。

実施した事業の内容・成果

<実施内容>

9月から毎月第三土曜日に「市民交流会（地ビールと音楽のタベ等）」を開催し、被災したまちの人たちの集まりを実施、また、11月1日から「お互いさまセンターまび」を開所し、軽四3台で「移動支援」をおこなう。被災先進地からの講師をお招きして「お互いさま復興を考える会」も4回実施した。

<成果>

- ・市民交流会は計6回、真備公民館箭田分館駐車場にて開催し、延べ2000名の参加者が集う。
- ・「お互いさまセンターまび」は岡山マインド「こころ」のビアホールを借りて、非常勤スタッフ4名を雇用、日本カーシェアリング協会から軽四3台をリースして「移動支援」を行う。利用者数70名、延べ利用回数468件。
- ・「お互いさま復興を考える勉強会」は、計4回開催する。
 - ・2018.10.23：第一回：障害者と復興（東俊裕・熊本学園大学教授）
 - ・2018.11.29：第二回：高齢者と復興（宇都幸子・阪神高・障害者支援ネットワーク代表）
 - ・2018.12.20：第三回：子どもと復興（神林俊一・気仙沼プレイワーカーズ理事）
 - ・2019.2.21：第四回：住民と復興（横田能洋・茨城JUNTOS代表）

<上記活動により>

・「お互いさまセンターまび」の実績を引き継ぎ、真備町の復興を見届けることを目的とした「一般社団法人お互いさま・まびラボ」の設立に至る。

活動の様子（写真などを添付してください）



市民交流会（10月）地ビールの様子



市民交流会（10月）コンサートの様子



11月1日、「お互いさまセンター」開所式



第二回「お互いさま復興を考える会」

第三回「お互いさま復興を考える会」

第四回「お互いさま復興を考える会」

決算報告 (※原則として領収書の写しを添付いただきます。)

今回実施した事業の決算内容は下記の通りです。

		費目	金額(円)
収入の部	/	ももたろう基金助成金	3,000,000
		NPO法人 岡山マインド「こころ」より	334,629
収入合計			3,334,629

		費目	算出根拠	金額(円)
支出の部	①当プログラム助成金 対象費目 当プログラム助成金(このプログラムで集めた寄付金)を充てる費目	人材育成事業		
		講師派遣謝礼	東、宇渡、神林、横田氏(22,274円)、石塚氏(88,168円)	150,442
		交通費	上記各位に	244,200
		事務所経費	「お互いさまセンターまび」	
		通信運搬費	電話料金等	21,553
		消耗品費	文具、コピー機トナー、ナビ・ドラレコ(2台)、コピー代等	959,951
		水光熱費	「お互いさまセンターまび」	76,108
		人件費	時給:900円、非常勤4名 通勤費込み	901,684
		車リース料	軽四3台(日本カーシェアリング協会より)	275,400
		車両費	ガソリン代	90,825
		保険料	軽四3台 任意保険料	327,450
		交通費	スタッフ通勤費	33,000
		手数料	振込手数料	2,736
		租税		1,800
		ステージリース料	10/14、沢知恵&キヨサクコンサート時	183,600
		DVDレンタル料	1/17、まちコン 映画上映会	65,880
		小計		
②その他費目 当プログラム助成金(このプログラムで集めた寄付金)を充てない費目				
	小計			0

寄付者へのメッセージ

真備町は西日本豪雨で大きな被害をこうむりましたが、みなさまをはじめ、多くのボランティアの方々のお力で少しずつですが起き上がって参ります。復旧もそうですが、私たちはこの教訓をもとに新しいまちづくりに向かうチャンスを与えていただきました。失くしたものは大きいのですが、いただいたものはもっと大きいのです。このチャンスが無駄にせぬよう精進いたします。

また、新たに立ち上がりましたまちづくり会社「一般社団法人お互いさま・まびラボ」を、今後とも見守り、ご支援をお願いするものです。ありがとうございました。

今後の活動

5月7日（火）から「お互いさまセンターまび」の「移動支援」等の事業は、すべて「一般社団法人お互いさま・まびラボ」に移管されます。今後はみなし仮設に出られた方々への生活支援も視野に、「移動支援」と「生活支援」に車を走らせる予定です。

また、災害復興関連のみなし仮設全戸へ配布していただけるような小冊子をつくり、倉敷市情報発信課から全戸へ発送していただき、その中から支援の声を上げていただけるよう工夫したいと考えます。